

平成 13 年 1 月 23 日

## 「地震情報と防災対策に関する国際シンポジウム」の開催について

文部科学省研究開発局  
地震調査研究課

### 1. シンポジウムの開催趣旨

地震災害が多発し、深刻な被害を経験している各国（米国・トルコ・台湾・日本）が一堂に会し、被害地震直後の二次災害防止のために余震情報をいかに活用していくか、活断層の存在、活断層活動の長期予測などの情報を住民への啓発や構造物の耐震性強化、立地規制などにどのように活用していくかについて議論して、今後の防災対策の参考にする。さらに、防災対策への活用にあたっての余震情報や長期予測などの地震情報の提供・報道のあり方について議論し、地震調査研究推進本部等の今後の地震情報の提供の参考にする。

本シンポジウムは、文部科学省が主催し、事務局の一部は（財）地震予知総合研究振興会地震調査研究センターが担当する。

### 2. 開催概要

#### ( 1 ) 名称 「地震情報と防災対策に関する国際シンポジウム」

英名 "International Symposium on Earthquake Information and Disaster Countermeasures"

#### ( 2 ) 期間 2001 年 2 月 28 日（水）10:00～17:30、3 月 1 日（木）10:00～17:00

#### ( 3 ) 開催場所 東京都江戸東京博物館ホール（JR 総武線両国駅西口下車徒歩 3 分）

#### ( 4 ) 主催 文部科学省

#### ( 5 ) 対象 主として、地震・防災に係わる研究者と関係者、関心のある一般の方。定員は 400 人。

#### ( 6 ) 参加費 無料

#### ( 7 ) 使用言語 予稿集：日本語または英語の本文に、英語と日本語の要約を付ける 会議：日本語と英語（同時通訳による）

### 3. 参加申し込み方法と問い合わせ先

#### ( 1 ) 参加申し込み方法

はがきまたは FAX に、住所、氏名、電話（FAX）番号、勤務先を記入して、下記問合先へお申し込み下さい。折り返し参加票をお送りします。（2月20日まで、ただし、定員に達し次第締め切り）

なお、取材希望の方は、参加申し込み時にその旨をご記入ください。

#### ( 2 ) 問合先

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-5-18 千代田本社ビル5階

（財）地震予知総合研究振興会地震調査研究センター 国際シンポ係

TEL:03-3295-1501 FAX:03-3295-1507 Email:edo@erc.or.jp

#### 4. スケジュール等

(1) コーディネータ：東京大学社会情報研究所長 廣井 脩

(2) 講演者及びパネリスト：

・海外 - 米国、トルコ、台湾の研究者、防災担当者 計6名

・国内 - 内閣官房、内閣府、地震調査研究推進本部関係者、気象庁、地方自治体防災関係者、報道関係者、損害保険関係者 計9名

(3) スケジュール

2月28日(水)

基調講演「地震情報を震災対策に生かすためには」

第 部 地震発生直後の地震情報と災害対応(講演とパネルディスカッション)

3月1日(木)

第 部 地震情報を防災にどう活用するか(講演とパネルディスカッション)

#### 5. プログラム(予定)

2月28日

主催者あいさつ

基調講演 「地震情報を震災対策に生かすためには」 廣井 脩(東京大学社会情報研究所)

第 部 地震発生直後の地震情報と災害対応

セッション1 日本における地震直後の情報の提供と活用

地震直後の情報の提供

西出 則武(気象庁地震火山部)

地震調査委員会における地震活動の評価

津村建四郎(地震調査研究推進本部

地震調査委員会)

情報の収集と報道

未定

セッション2 各国における大地震直後の防災対応

カリフォルニア州における地震直後の防災対応への最近の取り組み

Paul Jacks(米国：危機管理庁)

1999年8月17日イズミット地震後の災害対応

Mustafa Edrik(トルコ：ボアジチ大学)

1999年台湾集集地震直後の地震情報の提供と災害対応

温 國(台湾：国立中央大学)

パネルディスカッション「地震直後の情報を防災にどう生かすか」

議長：廣井 脩(東京大学社会情報研究所)

パネリスト：Paul Jacks(米国：危機管理庁)、関 克己(内閣官房)、

Guna Servaduray(米国：カリフォルニア州立大学)、津村建四郎(日本気象協会)、

温 國(台湾：国立中央大学)

3月1日

第 部 地震の長期予測情報を防災にどう活用するか

セッション1 地震の長期予測情報とは

長期的な地震発生の評価

島崎邦彦(東京大学地震研究所)

サンフランシスコ湾における地震の長期予測

David P. Schwartz(米国：地質調査所)

## セッション2 地震の長期予測情報の活用例と問題点

サンノゼ市におけるハザードマップの活用 Frances Winslow (米国：サンノゼ市)

西宮市震災に強いまちづくり条例 - 活断層と建築構造物 -

森田 順 (西宮市建設局)

日本における災害関係情報の提供と活用の現状と今後の展開

布村 明彦 (内閣府)

地震情報の地震保険への影響について 大門 文男 (保険料率算定会)

### パネルディスカッション「長期予測：リスク評価と対応策」

議長：廣井 脩 (東京大学社会情報研究所)

パネリスト：大門 文男 (保険料率算定会)、伊藤 和明 (文教大学国際学部)、  
布村 明彦 (内閣府)、David P. Schwartz (米国：地質調査所)、  
島崎 邦彦 (東京大学地震研究所)、Frances Winslow (米国：サンノゼ市)